

新潟医療福祉大学におけるアスリートへのアスレティックリハビリテーションサポート状況について

新潟医療福祉大学健康スポーツ学科・永野康治
 新潟医療福祉大学理学療法学科・佐藤成登志
 新潟医療福祉大学理学療法学科・亀尾 徹
 新潟医療福祉大学健康スポーツ学科・柵木聖也
 新潟リハビリテーション大学医療学部・栗生田博子
 新潟医療福祉大学理学療法学科・江玉睦明

【背景】

新潟医療福祉大学においては、平成21年よりアスリートサポートプロジェクトセンターが立ち上がり、健康スポーツ学科、理学療法学科の教員が中心となり学内アスリートのサポートを行ってきた。その活動の一環として、トレーニングセンター内のコンディショニングエリアにおけるアスレティックリハビリテーション指導を行った。そこで本研究では、新潟医療福祉大学におけるアスリートサポートの現状を明らかにし、アスリートの外傷・障害の傾向やアスレティックリハビリテーションの必要性を検討することを目的とした。

【方法】

2012年4月から2014年3月まで(2012年度および2013年度)に新潟医療福祉大学コンディショニングエリアにアスレティックリハビリテーションを目的として強化指定部活の来室者を対象とした。コンディショニングエリアの利用者記録を元に下記項目の集計を行った。

- ・年間総利用者数(総数、男女別)
- ・競技別利用者数
- ・部位別件数(2013年度のみ)
- ・競技別部位別件数(2013年度のみ)

尚、利用者数の集計はすべて延べ利用者数とした。部位別件数の集計は、対応部位を肩、肘、手、股、大腿、膝、下腿、足、腰、その他の中から選択して記録した。1回の来室に付き2カ所以上のアスレティックリハビリテーションを行った場合には、対応部位を複数選択した。

【結果】

年間総利用者数はいずれの年も1000件前後の利用者数があり、2013年度は女性の利用者数が特に多かった。競技別利用者比率を図1に示した。いずれの年も女子バスケの利用者が最も多かった。水泳部はいずれの年も利用者が少ない傾向であった。2013年度からは女子バレーボール、野球、ダンスの各競技が強化指定されたため、利用者がみられるようになった。特に女子バレーボールの利用者数が多かった。部位別比率を図2に示した。膝が最も多く、続いて足、腰、肩の件数が多かった。陸上では男女とも大腿部の件数が他競技

に比較して多い傾向であった。また、陸上女子では男子に比較して腰の件数が多かった。バスケットボールでは男子において足の件数が、女子において膝の件数が多かった。サッカーでは男女とも足の件数が多かった。女子サッカーでは腰の件数も多かった。女子バレーボールでは膝、足の件数が多かった。

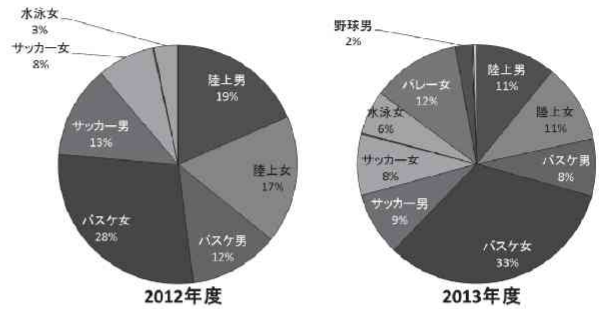


図1 競技別利用者比率

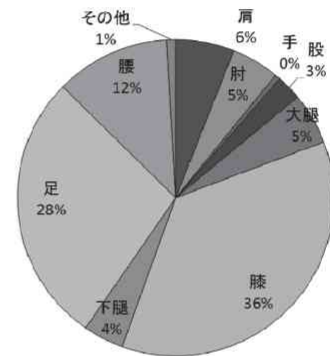


図2 対応部位別比率

【考察】

本調査については、大学規模に対して利用者の数は多いと言え、サポート活動が有効に活用されていたと考えられる。また、女性アスリートの利用者が多かったことも本調査における特徴であった。これは各大学におけるスポーツ活動を反映していると考えられ、本結果は女性スポーツが盛んに行われていることを裏付けるものだと考えられる。競技別利用者数をみると、本調査ではバスケットボールが最も多く、続いて陸上、サッカー、バレーボールの順であった。これも大学において強化されている競技によって変化すると考えられた。競技別の部位別対応件数からは、各競技における外傷・障害の特徴をみることができ、各競技の競技特性が部位別の対応件数にも反映されたと考えられた。

【結論】

本調査により大学アスリートに対するサポート活動の必要性が示された。特に対象としては女性アスリート、部位としては膝、足を中心とした下肢への対応が必要であることが明らかとなった。